

# 順位付けより成長促したい

10月に学園祭がありました。様々な模擬店や発表などで、かなり盛り上がりました。

そんなお祭りムードの中、ちょっと変わった展示を見つけました。高校生2人が自分の「評価表」を展示していたのです。評価表とは一般にいう通知表のことですが、自由の森学園の評価表には5段階の評定や順位が記されています。教科の担当教師からの文章がすべてです。

生徒は單元ごとにまとめ問題のプリントに取り組みますが、学期末はこの教科でも半期の学習をまとめめる文章をつづります。授業での学習と自分自身を結び付け、何を考え、何を得たのかをまとめます。学びを各生徒が内在化するための手続きとして重要です。前・後期で分厚い

## 評価とは何か

## はぐくむ

ファイルになります。

文章によって評価する教育方法は、「教育における評価とは何か」という問題に一つの答えを示しています。ほとんどの大人は、「評価」を5段階評定や集団での順位や偏差値と考えていると思います。しかし、本来は生徒のランク付けではなく、生徒の優れている点を評価し、到達点やより発展させるための課題を明らかにしてあげることではないかと思ふのです。

もちろん、順位が上がればうれしいし、下がったらまずいから勉強するという子どもたちは少なくないでしょう。しかし、評価の目的は相対的な位置付けをすることではなく、一人ひとりの成長を促すことにあると考えるのです。

順位付けが全く不要とは思いません

が、競争という仕組みが子どもたちの学習を支える主要な動機となっていることで、学びの本来の面白さが感じづらくなるのが心配です。

評価表を思い切つて展示した本人に理由を聞きました。高校3年の白石さんは、「友達の評価表を見てみたい」という動機からだと言ってくれました。ほかの生徒の評価表も見たいと思う以上、自分のものを公開するべきだと考えたそうです。高校2年の糸井君は「自分の評価表をほかの人から批評してほしかった」と言います。コメントした教師と自分だけの関係にとどめず、別の角度からの意見も聞いてみたかったそうです。

2人はこれから、学年末の学習発表会をどのようなものにしていくか、生徒の立場で考える集まりを開こうとしているそうです。

(自由の森学園理事長・鬼沢真之)